

2015年度事業計画(2015年4月1日～2016年3月31日)

2012年秋に開催した財団創立45周年シンポジウムを契機に、アジア各国の生命保険関係者を招いて東京で開催するセミナーには定員の2倍以上の応募が集まるようになり、「OLIS Seminar」が従来以上にアジア各国の生命保険業界に浸透してきていることが実感される。また、国内においても保険フォーラムや寄付講座の開催要望を複数の大学から受けており、財団のプレゼンスは着実に向上している。

しかし、その一方で金利の低下に歯止めがかからず、国債等の債券の運用益を主たる活動財源としている当財団は、過去の高利回りの債券が次々と満期償還を迎える中で、再運用先の選定に苦慮している。

来る2017年に迎える創立50周年を見据えながら、次年度以降も事業規模を縮小させることなく、財団の目的である「生命保険事業の健全な発展に広く寄与」していきたい。

(1) 研修事業

① アジア諸国・地域での海外現地セミナー

海外現地セミナーについては3か国で開催する。現在、中国生命保険協会と9月16日に共同開催することで、詳細を詰める作業をしている。また、ベトナム生命保険協会からも共同開催の同意を得ており、10月実施で準備を進めている。ほぼ隔年で開催している台湾生命保険協会との合同セミナーも7月に開催する予定である。

開催地	開催時期	共催団体
台湾(台北)	2015年7月	台湾生命保険協会
中国(北京)	2015年9月16日	中国生命保険協会
ベトナム(ホーチミン)	2015年10月	ベトナム生命保険協会

② 国内セミナー

基本言語を英語とする東京でのセミナーは、例年どおり2回開催する。

セミナー名	開催時期	参加人数
OLIS 2015 Spring	2015年5月21日～26日	40名
OLIS 2015 Autumn	2015年11月5日～10日	40名

セミナー申込と登録は、昨年度開催分までペーパーベースで行っていたが、2015年度開催分よりウェブ化している。

③ セミナー参加者への渡航費支援

セミナーに職員の派遣を希望しながら渡航費用の負担が困難な機関のために、費用を支援する「セミナー等参加渡航費の支援制度」は、途上国からの参加希望に応える

よう継続して実施する。

④ 海外生命保険事業調査のための現地フォーラム等への参加

アジア諸国・地域の生命保険事業に関する知見を深めるとともに、各国関係者との協力関係を維持・強化することを目的に、財団事業にとって有効と思われる現地開催の国際フォーラム等へ参加する。

(2) 教育振興事業

① 生命保険寄附講座

プルデンシャル生命及びジブラルタ生命の協賛を仰いでいる慶應義塾大学の寄附講座「OLIS-プルデンシャル・ジブラルタ 生命保険寄附講座」は、3か年の講座の3年目を開講する。

また、2014年度の秋学期から中央大学理工学部にて寄附講座を開講しており、2015年度はその2年目を開講する。

② 保険フォーラム

2014年度は4大学で合計4回開催した。各大学に認知され開催要望が増えていることから、2015年度においても東京女子大学、首都大学東京、上智大学、九州大学の4大学で開催する。

(3) 奨学制度

① タイ生命保険協会奨学制度

前年度と同規模で「タイ生命保険協会奨学制度」に協賛し、奨学金を給費する。

② 東日本大震災被災学生奨学金

前年度の給費額と同様規模で、震災による被災が原因で経済的に困窮し修学継続が困難となった優秀な学生に対して奨学金を給費する。

(4) 広報・出版事業

① 論文・書籍・情報の翻訳、紹介

アジア諸国・地域の生命保険事業の発展に有益と思われる論文・書籍・データを翻訳して提供する。2015年度は、アジア諸国が強い関心を抱いているテーマの論文・書籍の中から適切なものを探して翻訳し、無料で配布したい。

② ホームページの活用

アジア諸国・地域と相互に活発な情報交換ができるホームページ構築に2015年度も引き続き努める。

③ 寄附講座講義内容の出版支援

慶應義塾大学の生命保険寄附講座の講義内容をまとめて出版する計画が進められており、これの出版経費を完成本購入の形で支援する。購入後、寄附講座の講師等関係者、関係機関に無料配布する。

(5) 創設記念事業の検討

財団創設 50 周年(2017 年)に向けた新たな事業について検討を加え成案とするとともに、具体的な準備に着手する。引続き財団の運営委員会を中心に検討する。

(6) 管理部門

金利の下落が続き運用収益が漸減する環境下にあるため、管理部門のさらなる経費節減に努める。